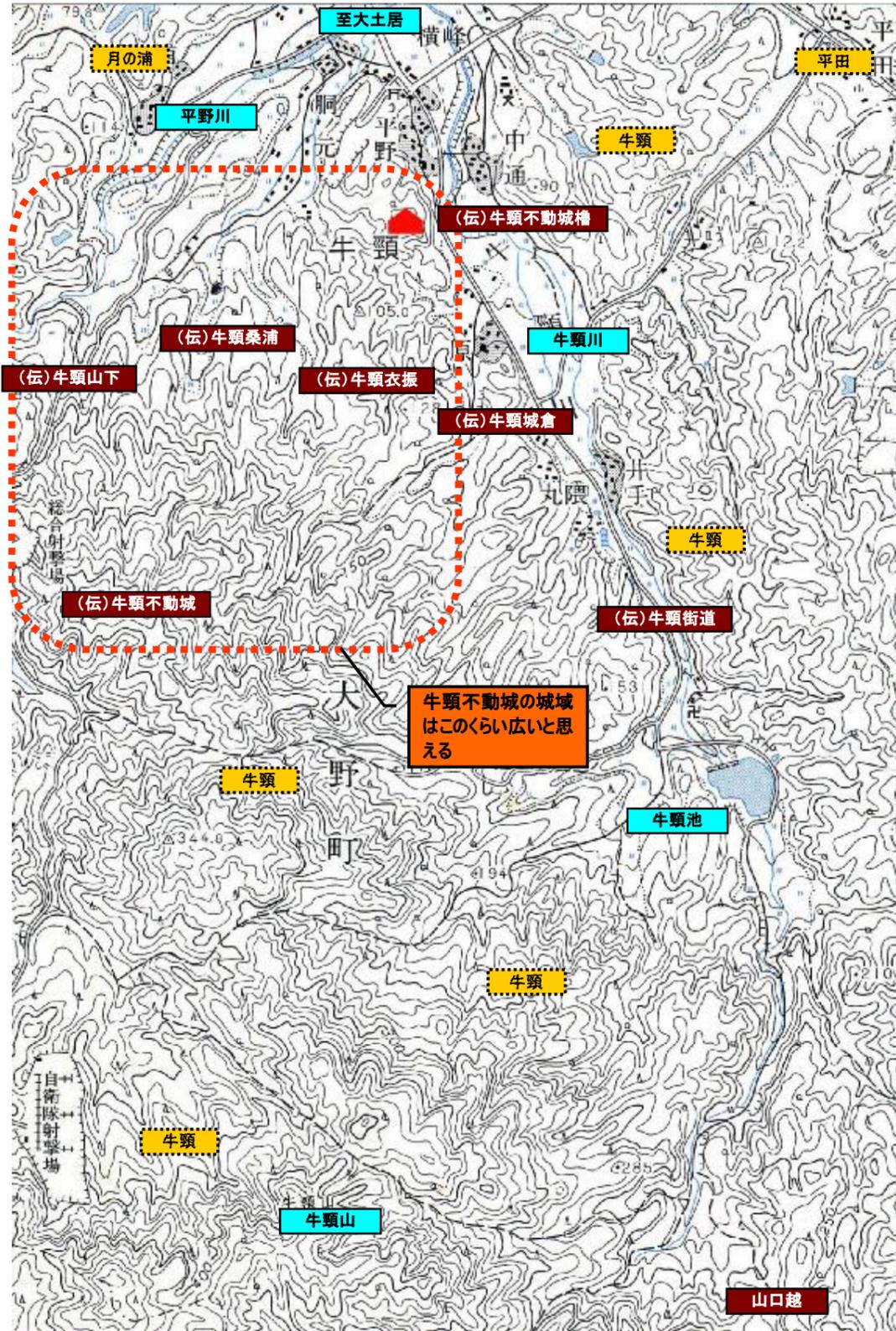


山城探訪‘(伝)牛頭不動城’正面ルート



一般に「牛頭不動城」は秋月家麾下で、秀吉軍と戦ったとされるが、筑紫家の城数之覚に「牛頭ノ城」の記載もあり、所在は一定でない。天正14年、「岩屋城」撃破後の薩摩軍の一部が「一の岳城」に進軍中、「不動城」の脇を通過し空城であった。と九州軍記に記されている。山裾に武士町や牛頭城倉などの地名が残り、「大きな櫓があった」とか「城主の逃げる地下道があった」などの口伝もあるが、その遺構は見あらず、戦闘で焼けた痕もない。山は標高100m程で、低く小さく、曲輪が狭すぎて、多数兵士を収容できない。城と呼ぶにはムリがあり、せいぜい岩か物見台である。本城は牛頭山地の高所、桑浦上部奥地にあつたと思われる。昭和44年の地図からみると、牛頭山下から衣振丘陵と細流の多い谷あい全体が城として機能していたように思えてくる(九州大院比文資料)。「牛頭不動城」の立地は、山口から黒金山を越え大土居にぬける街道筋を見張る好位置にあるが、山浅く傾斜緩く、戦闘に不向き。那珂川「お迎え船着場」の監視台「老林城」にどう見ても見劣りする(老林城は傾斜きつく、曲輪三段)。いま、山上尾根に祭礼が行われたと思われるビニル紐による区画があり、縁故者の集会を示す。

鳥栖市教育委員会石橋氏から筑紫広門氏関連の質問で「牛頭不動城跡」櫓部分のみであるが調査し報告した。城の遺構は平野台団地内および南方に連なる山地に残ると思える。発掘が期待される。(大野城市平野台2丁目 北敏幸)

《牛頭不動城：2009》



尾根切削地－仮設礼拝所01



尾根切削地－仮設礼拝所03(曲輪跡＝ヤダケは山城のシンボル)



尾根切削地－仮設礼拝所02



山頂切削地(曲輪跡だが狭く実用性劣る)



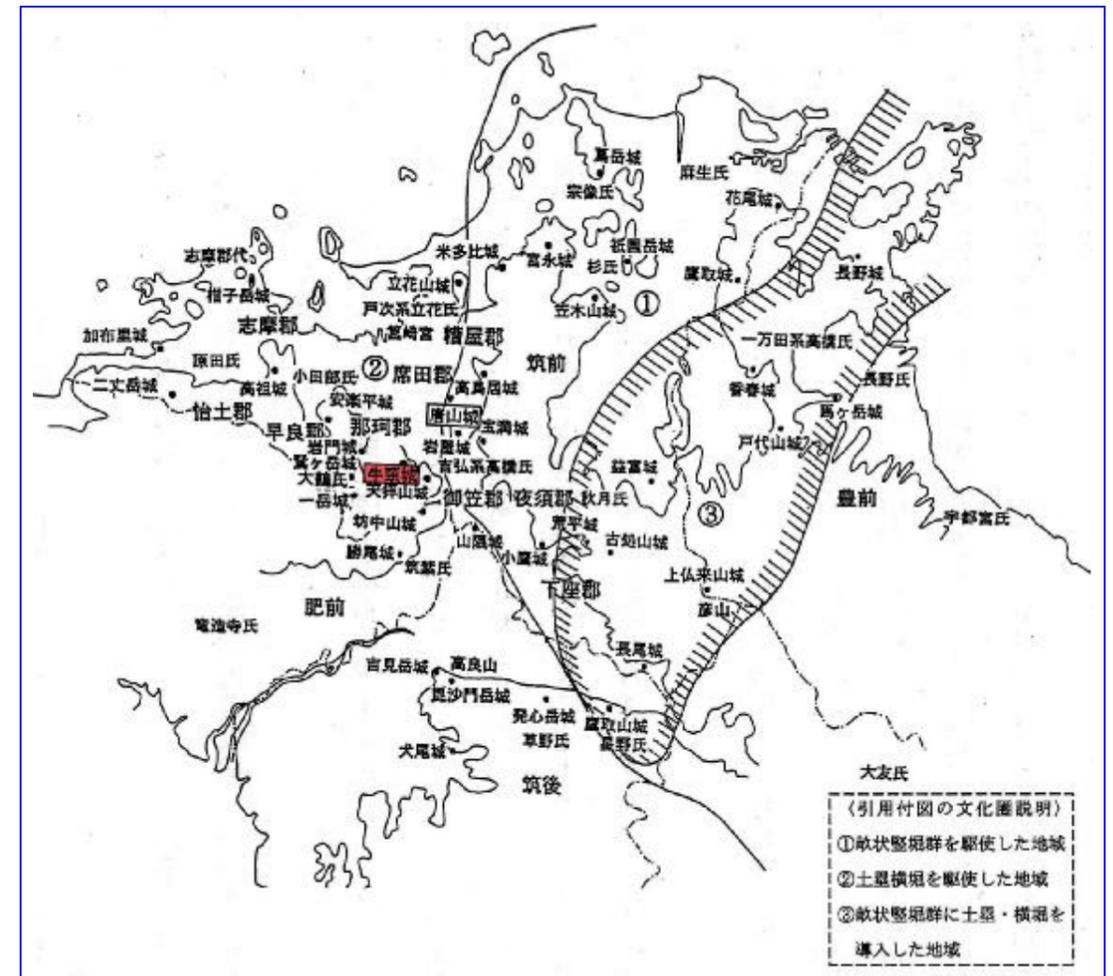
山頂(曲輪跡)から平野台～天が岳遠望



山頂切削地－建物跡(新しい石組み区画)



山麓－銘碑(西鉄設置)



鳥栖市教育委員会石橋氏から筑紫広門氏関連の質問で‘牛頭不動城跡’ 櫓部分のみであるが調査し報告した。城の遺構は平野台団地内および南方に連なる山地に残ると思える。発掘が期待される。(大野城市平野台2丁目 北敏幸)